

平成31（令和元）年度 学校自己評価表

2020/3/23

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標		1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実	4 地域との連携による学校づくり 5 業務改善の取組				
評価項目	現状	具体項目		具体目標	具体方策	中間評価	評価に対するコメント	最終評価	
1 確かな学力の育成	アクティブラーニングに関する研修に全教科の教員を派遣するとともに、ICT機器を活用した「学びの文化祭 in Yonago」を開催して、授業改善研究を推進する。	学力の向上	基礎的な知識および技能の向上 主体的に学習に取り組む態度の育成	組織的、計画的に授業改善を推進する	「学びの文化祭 in Yonago」によるアクティブラーニングの推進と校内推進体制の強化	B	・5回目開催の「学びの文化祭inYonago」は、10月28日に実施し、70名あまりの参加があった。 ・ICT機器の利用促進のため研修会を実施し、各教科のICT機器活用率は76%であった。 ・10月21日、12月2日にコーチングスキル研修会を実施し、コーチングの技術を研修した。	B	
					ICT機器の教員全体の80%活用				
				系列の特色化と資格取得を促進する	各系列ごとの学校独自事業の充実、特別支援学校との交流	B	・学校独自事業は計画通り実施し、特別支援学校との交流を2回(11月8日、12月13日)に実施した。 ・ビジネス文書実務検定1級1名、保育技術検定1級5名合格した。 ・各種検定(商業2級以上、家庭2級以上、フラワー3級)において、14名合格し、合格率は58.3%だった。	B	
					高度資格受験者の50%以上の合格				
2 豊かな人間性の育成	遅刻者数は年々減少している。届出の徹底を含め、更に規範意識を向上させる必要がある。より一層主体的に活動する意欲を高める必要がある。	思考力、判断力、表現力の更なる向上	テーマ学習を進化させ課題解決能力を高める	地域経済分析システム(RESAS)を活用した米子市中心市街地活性化基本計画の構築と地方創生アイデアコンテスト及び高校生ビジネスグランプリへの応募	B	・RESAS出前講座、学年最終発表会等を予定通り実施した。 ・テーマ学習の研究エリアを見直して研究内容の充実を図り、地方創生アイデアコンテストなどにも応募した。	B		
				基本的な生活習慣の定着	遅刻者数10%減を目指す	遅刻確認票による遅刻指導の更なる強化	C	・前年度よりも9%増加したものの、3年生は大幅に減少(△56%)した。(2月末現在)	C
					規範意識の向上と掃除の徹底	米子高校生としての自覚を促す行動の啓発(問題行動ゼロ)。SNS対策を中心とする情報リテラシー教育の推進	B	・問題行動はゼロにならなかった。 ・スマホ携帯安全教室を実施し、SNSトラブルの防止を目的とした情報リテラシー教育を推進した。 ・スタントマンによる自転車講習会を実施し、自転車事故防止の意識を高めることができた。 ・掃除の徹底や整理整頓は十分ではなかった。自主的に放課後に清掃活動をする意識の高い生徒もいた。	B
						掃除の徹底と整理・整頓の推進	生徒の各種活動への積極的参加を促す	生徒会執行部による各種自主的活動の充実	A
生徒の主体的活動の推進(国際交流・部活動)	部活指導員・外部指導者の活用による部活指導の充実	アメリカSTA高校への派遣・韓国造形芸術高校への交流派遣と受け入れ							
3 自己実現のための進路指導の充実	産業社会と人間・プレテーマ学習・テーマ学習が進路実現に反映されている。	支援が必要な生徒への援助	生徒情報を共有し適切なサポートを行う	研修会による情報共有と委員会等による適切な対応	B	・エビベン職員の研修を行うなど、アナフィラキシーに対する理解を深めた。 ・支援や配慮が必要な生徒情報を職員が共有し、生徒・保護者の対応を行ったが、不十分な点もあった。	B		
				キャリア教育の発展	総合的な学習の時間における各種講演会の充実と系統的なキャリア教育の構築	B	・5月、9月の進路講演会をはじめ、各種講演会を計画通り実施し、キャリア教育の充実を図るとともに、教員の指導力向上を図った。 ・学習成果発表会を実施し、他県生徒の参加はなかったが、県内中学生を含め60余名の参観があった。	B	
					学習成果発表会において他県生徒との連携				
				進路指導の充実	生徒に高い目標を設定させ、希望の進路を実現させる	B	・各学年の進路希望検討会を複数回実施し生徒の指導をきめ細やかに行った。9月に職員進路研修会も実施して教員の指導力向上を図った。 ・高大接続改革推進プロジェクトチームは、大学入試改革への対応と、アクティブ・ラーニングへの対応を図った。 ・就職を含めた生徒の進路希望を実現することができたが、国公立大学進学者は減少した。 ・看護系進路希望者への職場体験を実施し、進路選択の一助とした。	B	
看護系進学希望者の職場体験の実施と進路実現									
4 地域との連携による学校づくり	地域連携によって学校への信頼、期待が高まっている。	地域のニーズに応じた地域貢献	文化芸術活動の拠点校として、地域のニーズに積極的に応える	部活動における各種イベントの開催と参加	B	・地域の要請に応え、商業施設での作品展示、地元情報誌表紙デザイン、文化ホールでの花壇デザインを行い、感謝状をいただいた。 ・吹奏楽部・ダンス部・UTA同好会・書道同好会・美術部が各種イベントや、保育施設、福祉施設を訪問し、パフォーマンスを披露した。 ・学校運営協議会を開催し、地域連携の推進に関する提言をいただいた。 ・米子市文化ホールで草花植栽活動を行い、各公民館やJR米子駅には花の提供ができ、感謝状をいただいた。 ・イチゴ栽培・収穫では保育園児と交流を実施した。	A		
				学校運営協議会を活用した地域連携の推進					
				「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」による地域貢献の推進					
		積極的な社会参画と情報発信	社会につながる教育活動を推進する	B	・12月に高校生出前キャリアガイダンスを中学校7校に対して実施した。 ・総合美術展を1月に開催し、全校生徒と300名を超える来場者があった。	A			
5 業務改善の取組	長時間勤務者が複数名いる。	時間外勤務を月45時間以下、年間360時間以下を目標とする	月当たりの時間外業務を平成29年度の15%削減	掃除の徹底と整理・整頓の推進	B	・執務室や更衣室の整理整頓と掃除の徹底を行っている。机上の整理・整頓を更に進める必要がある。 ・各部とも月間活動計画を作成・提出し、部活動休養日を設定し、部活動活動方針を遵守できている。 ・昨年度より月45時間超時間外勤務者が20%減少している。また、平成29年度より時間外月平均時間が8%削減できているが十分とはいえない。(2月末現在)	C		
				米子高校「部活動方針」に基づく適切な運用					
				業務の効率化と意識改革の推進による時間外勤務の把握と指導					

評価基準 A:目的・目標を達成した B:ほぼ計画(予定)どおり推進している C:取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D:一層の(新たな)取組が必要